

問1 中国政府が沿岸部の特定の地域を経済特区に指定し、外国企業に対して税制上の優遇措置を与えた主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 特定の地域において少数民族の伝統的な文化や言語を保護し、高度な自治を認めるため | 2. 外国製品に対する関税を高く設定することで、国内の伝統的な地場産業を保護するため | 3. 国内の農村部から都市部への人口移動を厳しく制限し、食料自給率を維持するため | 4. 外国からの資本や高度な技術を導入することで、自国の工業化と経済発展を促進するため |
|--|--|--|---|

問2 インドの産業別就業者人口の割合を日本や韓国などの国々と比較した場合、インドに見られる顕著な特徴として適切な説明はどれですか。 (2018年 広島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---------------------------------------|
| 1. 経済発展に伴い、第1次産業の就業者割合が日本と同じ1割未満まで低下している。 | 2. IT産業の成長により、日本と同様に第3次産業の就業者が就業人口の過半数を占めている。 | 3. 日本や韓国に比べて、農業などを含む第1次産業の就業者割合が非常に高い。 | 4. 「世界の工場」と呼ばれる中国と同様に、第2次産業の就業者が最も多い。 |
|---|---|--|---------------------------------------|

問3 中国の主要都市における一月の平均気温と降水量の特徴について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 一月の平均気温は、緯度に関わらず大陸の東側よりも西側の内陸部の方が高い | 2. 一月の平均気温は、北部のシェンヤン（瀋陽）よりも南部のコワンチヨウ（広州）の方が高い | 3. 北京の年間降水量は、南方の上海よりも多く、熱帯モンスーンの影響を強く受けている | 4. 年間の降水量は、沿岸部に位置する上海よりも内陸部の都市の方が全体的に多い |
|--|---|--|---|

問4 1990年から2013年にかけての世界のエネルギー供給と経済状況について述べた文章のうち、インドの特徴として正しいものはどれですか。なお、2013年時点の統計において、カナダとインドを比較したものとします。 (2018年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 1人あたり国民総所得と原油自給率がともにカナダより低いが、一次エネルギー国内供給量は約2.5億tから約8億tへと急増している。 | 2. 1人あたり国民総所得はカナダより低いが、原油自給率は100%を超えており、一次エネルギー国内供給量の増加幅はカナダより小さい。 | 3. 1人あたり国民総所得はカナダより高いが、原油自給率は低く、一次エネルギー国内供給量は1990年以降減少傾向にある。 | 4. 1人あたり国民総所得と原油自給率がともにカナダより高く、一次エネルギー国内供給量は1990年から2013年にかけて横ばいで推移している。 |
|--|--|--|---|

問5 ベトナムにおいて、2000年代初頭からの十数年間で機械類の輸出シェアが爆発的に拡大し、国の経済を支える最大の項目へと成長した背景として、最も適切な説明を選んでください。 (2021年 兵庫県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 石炭や鉄鉱石などの豊富な鉱物資源をそのまま輸出するモノカルチャー経済を強化したため | 2. 米の生産を大幅に削減し、すべての水田をスマートフォン工場へと転換する強硬な政策をとったため | 3. ASEAN（東南アジア諸国連合）を脱退し、周辺国との関税を高く設定することで国内産業を保護したため | 4. ドイモイ（刷新）と呼ばれる政策によって市場経済が導入され、外国資本の受け入れが進んだため |
|--|--|--|---|

問6 世界の主要な農産物統計において、生産量の第1位が中国（世界全体の17.0%）、第2位がインド、第3位がアメリカ合衆国となっている作物はどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|-------|------|-------|
| 1. とうもろこし | 2. 大豆 | 3. 米 | 4. 小麦 |
|-----------|-------|------|-------|

問7 フィリピンの気候統計では、年間を通じて気温が25度以上と高く、さらに夏季から秋季にかけては月間降水量が400ミリメートルを超える極めて激しい降雨が記録されます。このような、季節によって吹く向きが変わる風の影響を強く受ける熱帯の気候区分を何といいますか。 (2019年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|--------------|-----------|----------|
| 1. 地中海性気候 | 2. 熱帯モンスーン気候 | 3. 熱帯雨林気候 | 4. サバナ気候 |
|-----------|--------------|-----------|----------|

問8 中国において、山東省、湖南省、甘粛省など広範囲に分布し、漢字を使用する文化圏を形成してきた民族の特徴を説明したもののとして、正しいものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---------------------------------------|
| 1. 高地での稲作を専門とし、独自の仏教信仰を軸とした政教一致の社会を築いてきた。 | 2. 農耕を基盤として発展し、周辺の民族に文化的な影響を与えながら人口を増やしてきた。 | 3. 東部沿岸部のみに居住し、19世紀以降にヨーロッパから移住してきた人々の子孫である。 | 4. 広大な乾燥地帯で遊牧を主な生業とし、移動式住居で生活する伝統を持つ。 |
|---|---|--|---------------------------------------|

問9 オーストラリアの貿易相手国の変化について、1965年と2015年の状況を比較した説明として、正しい内容を述べているものを選びなさい。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 1965年にはアジア州の国々が主な輸出先であったが、2015年には工業製品の輸入を増やすため、イギリスを中心としたヨーロッパ州との貿易が主流になった。 | 2. 1965年から一貫して中国が最大の貿易相手国であり、2015年には日本や韓国を合わせたアジア州全体との貿易額がさらに増加した。 | 3. 1965年には北アメリカ州の国々との貿易が中心であったが、2015年には地理的に隣接するニュージーランドなどのオセアニア州内での貿易が全体の過半数を占めるようになった。 | 4. 1965年にはイギリスやアメリカ合衆国などの欧米諸国が貿易の上位を占めていたが、2015年には中国や日本などのアジア州の国々が上位となった。 |
|--|--|---|---|

問10 中国が沿海部に経済特区を設置し、外国企業の進出を促した背景や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 外国企業に高い関税を課すことで国内産業を保護し、純粋な国産技術のみによる経済発展を目指すため。 | 2. すべての企業を国営化して政府の強い管理下に置き、農村部との経済格差を完全に解消するため。 | 3. 沿海部の人口密度を下げるために、労働力を内陸部の自治区へ分散させる政策の一環として行われた。 | 4. 市場経済の一部を取り入れることで、外国の資本や技術を導入し、停滞していた経済の近代化を図るため。 |
|--|---|---|---|

問11 2010年から2022年にかけての主要な漁業国の漁獲量の推移について、2010年の約500万トンから2022年には約1200万トンへと2倍以上に急増し、主要な漁業国の中でも特に際立った増加傾向を示している東南アジアの国はどこですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|--------|--------|-------|
| 1. インドネシア | 2. インド | 3. ペルー | 4. 中国 |
|-----------|--------|--------|-------|

問12 アジア南部の地形の特徴を示した資料において、インド亜大陸の北側にそびえるヒマラヤ山脈が、周辺地域の自然環境に与えている影響についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 南北に長く走る巨大な山脈が障壁となり、インドと中国の間の文化交流が歴史を通じて完全に行われなかった要因となった | 2. インド洋からの湿った季節風（モンスーン）を遮るため、山脈の南側では雨が多く、北側の内陸部では乾燥した地域が広がっている | 3. 険しい高山地帯であるため、山脈の周辺一帯は居住が不可能であり、アジアにおいて人口が最も希薄な地域となっている | 4. 北極側からの冷たい空気を完全に遮断するため、アジア全域が一年中温暖な熱帯気候となっている |
|--|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 外国からの資本や高度な技術を導入することで、自国の工業化と経済発展を促進するため	当時の中国は、経済を活性化させるために国外の資金や優れた技術力を取り入れる必要がありました。そのため、沿岸部の都市を窓口として開放し、外国企業が活動しやすい環境（インフラの整備や税制優遇）を整えることで、輸出拡大と国内産業の近代化を目指しました。これは「改革・開放」政策の根幹をなす取り組みです。
問2	答え 3 日本や韓国に比べて、農業などを含む第1次産業の就業者割合が非常に高い。	日本や韓国のような先進工業国では、産業の高度化が進んでいるため第1次産業の就業者割合は極めて低くなっています。対してインドは、IT分野の先進性で注目される一方で、広大な国土と膨大な人口を背景に、現在も全就業者の約5割が第1次産業に従事しており、先進国とは対照的な産業構造を維持している点が特徴です。
問3	答え 2 一月の平均気温は、北部のシェンヤン（瀋陽）よりも南部のコワンチョウ（広州）の方が高い	広大な国土を持つ中国では、緯度の違いが気温に大きく影響します。一月の平均気温を比較すると、緯度の高い北部（シェンヤンや北京など）は寒さが厳しく、緯度の低い南部（コワンチョウなど）は温暖になります。降水量については、上海などの東部沿岸の方が内陸部よりも多くなるのが一般的です。
問4	答え 1 1人あたり国民総所得と原油自給率がともにカナダより低いが、一次エネルギー国内供給量は約2.5億tから約8億tへと急増している。	インドは1990年代以降、急速な経済発展を遂げていますが、巨大な人口を抱えるため、国民1人あたり国民総所得（GNI）はカナダなどの先進国に比べるとまだ低い水準にあります。また、国内での石油消費量が多いため原油自給率も低くなっています。一方で、経済成長と産業化に伴い、国全体のエネルギー需要を示す一次エネルギー国内供給量は、1990年から2013年の間に3億tを大きく超える急激な増加を見せています。
問5	答え 4 ドイモイ（刷新）と呼ばれる政策によって市場経済が導入され、外国資本の受け入れが進んだため	ベトナムは1986年から「ドイモイ（刷新）」政策を推進し、社会主義の枠組みを維持しながらも市場経済を導入しました。これにより日本や韓国などの外資系企業による直接投資が活発化し、電気機器や精密機械の組み立て拠点が形成されたことが、輸出額の大幅な増加につながりました。
問6	答え 4 小麦	中国は膨大な人口を支えるため農業生産が非常に盛んであり、小麦と米の両方において世界最大の生産量を誇っています。統計において中国、インド、アメリカ合衆国の順で生産量が多いのは小麦の特徴です。アメリカ合衆国は輸出量は多いものの、国内消費量も多い中国やインドが生産量では上位に位置します。
問7	答え 2 熱帯モンスーン気候	フィリピンは低緯度に位置するため一年中気温が高いですが、季節風（モンスーン）の影響を受けることで、降水量に明瞭な変化が生じます。特に夏季から秋季にかけて海側から湿った空気を運ぶ季節風の影響で降水量が激増する特徴があるため、熱帯の中でも熱帯モンスーン気候に分類されます。
問8	答え 2 農耕を基盤として発展し、周辺の民族に文化的な影響を与えながら人口を増やしてきた。	漢族は黄河文明以来、農耕を基盤として社会を形成し、漢字や儒教などの文化を周辺地域に広めながら、中国の歴史において中心的な役割を果たしてきました。そのため、現在でも中国の省の多くで人口の大部分を占めており、特定の自治区だけでなく、山東省や湖南省といった主要な省の全域にわたって定住しています。
問9	答え 4 1965年にはイギリスやアメリカ合衆国などの欧米諸国が貿易の上位を占めていたが、2015年には中国や日本などのアジア州の国々が上位となった。	オーストラリアの貿易構造は、20世紀半ばまではイギリスを中心としたヨーロッパ諸国に依存していましたが、21世紀に入ると経済発展の著しい中国をはじめとするアジア州諸国へとシフトしました。2015年時点では、中国、日本、韓国、タイといったアジアの国々が主要な貿易相手国の上位に並んでいます。
問10	答え 4 市場経済の一部を取り入れることで、外国の資本や技術を導入し、停滞していた経済の近代化を図るため。	1970年代後半までの中国は、社会主義的な計画経済によって経済が停滞していました。そこで「改革・開放」へと方針を転換し、特定の地域で市場経済的な手法を認めることで、外資の導入を試みました。これにより、外国企業の進出に伴う技術移転や雇用創出が実現し、中国全体の経済成長へとつながりました。
問11	答え 1 インドネシア	インドネシアは21世紀に入り、水産業の近代化や漁船の大型化を進めたことで、漁獲量を飛躍的に伸ばしました。2010年から2022年にかけての統計では、他の伝統的な漁業国と比較してもその伸び率は非常に大きく、世界有数の漁業国としての地位を確立しています。
問12	答え 2 インド洋からの湿った季節風（モンスーン）を遮るため、山脈の南側では雨が多く、北側の内陸部では乾燥した地域が広がっている	標高の極めて高いヒマラヤ山脈は、湿った空気を運ぶ季節風を上昇させる壁の役割を果たします。その結果、風上となる南側のインド周辺では多量の雨が降りますが、山脈を越えた北側のチベット高原などには湿った空気が届かず、乾燥した気候になります。このように地形が気候の境界線となっている点は、地理の学習において非常に重要です。